名古屋都市センター
Nagoya Urban Institute

News Letter ニュースレター

2025.07 vol.130

中部電力 MIRAI TOWERから見る久屋大通南エリア

特集◉ 久屋大通の再生

昭和100年、栄地区を象徴する公共空間のこれから

調査研究

まちづくりセミナーを開催しました！

まちづくり支援

活助成果報告会を開催しました！

まちづくり来ぶらり

道徳公園クジラ池噴水

特集

久屋大通の再生

昭和100年、栄地区を象徴する公共空間のこれから

中部電力 MIRAI TOWER
から見る久屋大通南エリア

南エリアの「エディオン久屋広場」。休日はイベントなどで賑わいますが、平日は閑散としていることが課題です。

2020年オープン「Hisaya-odori Park」のミズベヒロバ。全長80mの水盤がフォトスポットとして人気です。

昭和100年 名古屋のまちづくり

今年2025年は、昭和が誕生してちょうど100年目にあたります。第二次世界大戦を経て、戦後の復興から高度経済成長、バブル経済へとめまぐるしく社会や人々の生活が変化した時代。そんな昭和時代の名古屋におけるまちづくりを振り返ってみると…

昭和7年、中川運河が全線供用を開始。名古屋港と都心を結ぶ水運物流の軸として、名古屋の経済・産業の発展を支えました。名古屋に地下鉄が開通したのは、昭和32年。名古屋～栄町間の2.4kmの区間でしたが、市民にとっては待ちに待った地下鉄の開通でした。昭和39年には東海道新幹線が営業を開始。世界初の高速鉄道として、東京～名古屋～大阪間の移動時間を大幅に短縮しました。そして時代は進み、モータリゼーションが加速する中で、名古屋初の都市高速道路3号大高線（高辻～大高間）が昭和54年に開通。さらに国内初の中央走行式の基幹バス新出来町線が昭和60年に運行を開始しました。

戦災復興事業としての久屋大通

そして、昭和時代のまちづくりで忘れてはならないのが戦災復興事業です。中でも、栄地区の中心部を南北に走る久屋大通は、戦後、戦災復興事業により計画された100m道路の一つで、昭和24年頃から整地工事が始まり、昭和30年頃には久屋大通としての形態が完成、その後昭和30年代から40年代にかけて、地下鉄2号線（現在の名城線）の建設とともに、道路中央帯部分において公園的な整備が行われ、昭和45年には都市公園「久屋大通公園」として供用が開始されました。

昭和61、62年には、戦災復興事業の収束等を記念した設計競技が開催され、その優秀作品を参考に、広小路通～若宮大通間の改修工事が実施され、戦災復興事業のシンボルの一つとして整備が進められてきました。

北エリア・テレビ塔エリアの再整備

久屋大通は、都心の道路網の主軸でありながらも、中央に公園機能を持ち、災害時には広域避難場所の役割も備えた画期的な公共空間であると同時に、緑あふれる都心の中のオアシスとして人々から親しまれてきました。一方

で、月日の経過とともに施設の老朽化・陳腐化が進んだことや、時代とともに変化してきた公共空間のあり方、使い方を再検討しようと久屋大通公園の再生計画が動き始めました。

まずは、北エリア・テレビ塔エリアの再整備として、Park-PFI※を活用した整備運営事業を展開。2020年に「Hisaya-odori Park」がオープンしました。誰もがくつろぎ、憩える芝生広場や、話題性の高い飲食・物販店が建ち並ぶ商業エリア、中部電力MIRAI TOWERを逆さに映す水盤のフォトスポットなど、憩いとにぎわいにあふれる空間として再生しました。

南エリアの再整備に向けて

北エリア・テレビ塔エリアの再整備から約5年。錦通以南の南エリアの再整備に向けた取り組みが進められています。

南エリアは、週末を中心に大きなイベントが多数開催される一方、イベントが開催されていない平日は閑散としている点や、快適な園路や休憩スペースが少ない点、また全体的に無機質で老朽化しており、公園としての居心地が良くない点等の課題が挙げられてきました。

そこで、名古屋市では、市民や地域関係者・有識者等からも意見を得ながら、久屋大通南エリアの事業化に向けた基本的な考え方として、「久屋大通南エリア再整備構想」を2025年3月に策定しました。ここでは、「『新たな創造が生まれるウォーカブルタウンのコア』～多様な人が集まる刺激と居心地～」をコンセプトに、「毎日にぎわう空間」「まちを歩きたくなる空間」「都心の憩いとなる空間」「安心・安全な公共空間」を全体の整備の方針として掲げています。その上で、錦通から若宮大通までの約800メートルの区間を4つのゾーンに分け、それぞれの特性に応じた再整備を図るとしています。（下図参照）

現在、再整備事業の推進に向けたサウンディング調査が行われています。市民等の意見を反映させつつ、民間企業との対話も進めながら、さらに具体化されていく予定です。

これらの再整備を通して、名古屋の都心部としての栄地区が、栄地区グランドビジョンに掲げる「最高の時間と居心地を提供する『栄まるごと感動空間』」に近づくことが期待されます。

※Park-PFI
都市公園の中に飲食店等の収益施設の設置を許可し、その収益の一部を公園施設の整備・改修等に還元、その運営を一体的に行う民間事業者を公募により選定するという制度。民間の優良な投資を誘導するとともに、公園管理者の財政負担を軽減しながら、都市公園の質の向上、利用者の利便性を高めることが期待できる。

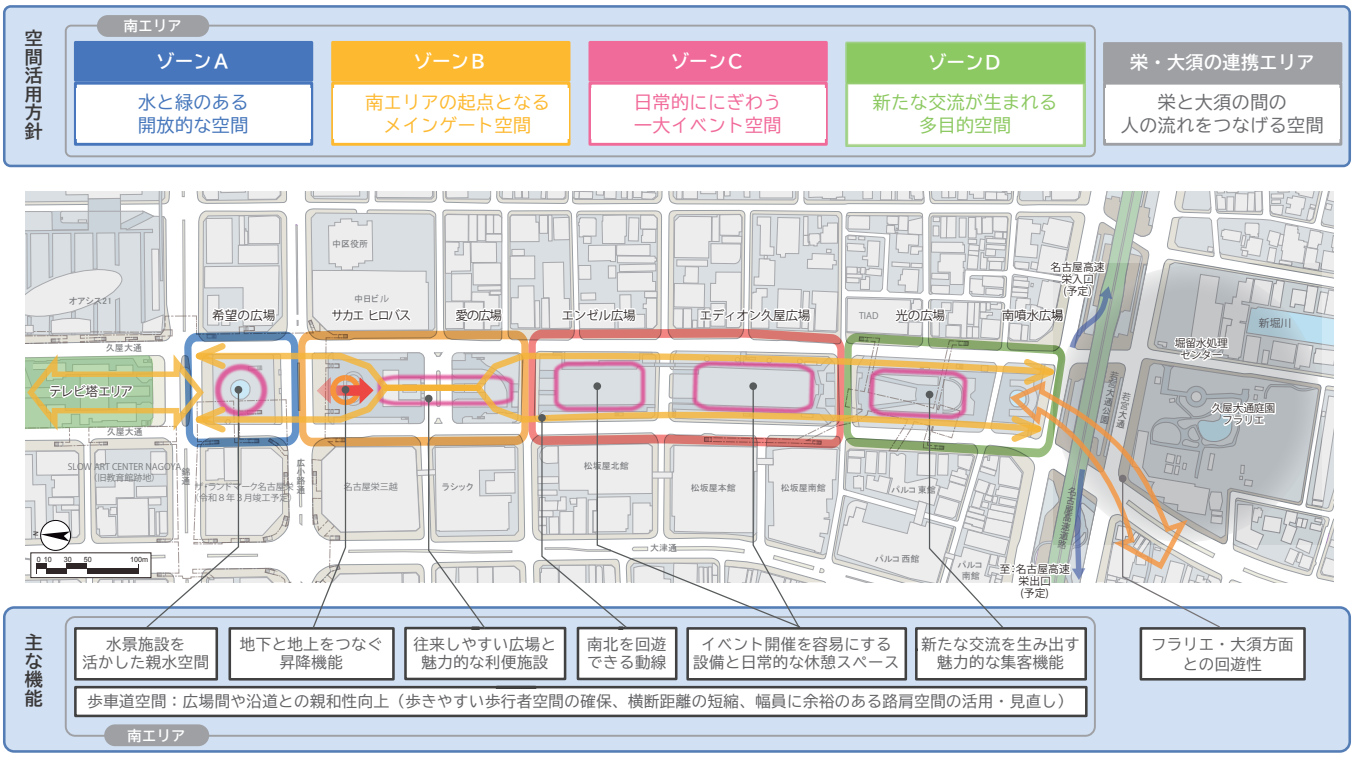
■久屋大通の成り立ち

昭和24（1949）年
戦災復興事業による整地工事が始まる

昭和29（1954）年
日本初の集約電波塔、名古屋テレビ塔が開業

昭和45（1970）年
久屋大通公園が都市公園として供用開始

■空間活用方針と主な機能のイメージ（久屋大通南エリア再整備構想より）



まちづくりセミナーを開催しました！

現在、中川運河やガーデンふ頭において水辺を活用した魅力的な拠点開発に向けた様々な取組みが進められています。

今回、淡路島においてレストランや宿泊施設などをオープンさせ、島広域の地方創再生を視野に入れた統合的なエリア開発を目指す株式会社バルニバービの佐藤裕久氏と、葛西臨海公園をはじめPFIなどを通じて公園再生事業を展開する株式会社ゼットンの鈴木伸典氏に取組みを紹介いただきながら、今後の水辺創造について考えるセミナーを令和7年1月8日（水）に開催し、140人の方にご参加いただきました。（本セミナーの詳しい内容はアーバンアドバンス2025年9月号（No.84）に掲載予定です）

事例紹介

佐藤氏（株式会社バルニバービ）からは、淡路島における地方創再生に関する取組みをご紹介いただき、「一番に目指したのは、人が住みたくなる街、地方が再生しつつかつ新しいものを加えていくこと」、鈴木氏（株式会社ゼットン）からは、葛西臨海公園における公園再生に関する取組みをご紹介いただき、「街をつくる行為において大事なポイントは、その街の宝を見つけること」というご意見をいただきました。

佐藤裕久氏（株式会社バルニバービ）

鈴木伸典氏（株式会社ゼットン）

パネルディスカッション

今後の水辺創造について、中川運河と名古屋港の取組みを題材として、坂本敏彦氏（名古屋市）から、中川運河の拠点開発に関する取組みをご紹介いただき、木村文彦氏（名古屋港管理組合）から、ガーデンふ頭再開発に関する取組みをご紹介いただきました。佐藤氏からは、過去の神戸の「ハレ」と「ケ」が混在していた事例を踏まえ、中川運河は色々な「ケ」が残っており、それらを上手く活かせばより魅力的になるのでは、との発言がありました。鈴木氏からは、水辺であるこのエリアがすでに宝であり、食に限ることなく、スポーツ、音楽、さまざまな文化的要素とつなげることができるのでは、との発言がありました。コーディネーターの加藤義人氏（名古屋都市センター特任アドバイザー）からは、経験と研ぎ澄まされた勘をお持ちの佐藤氏、鈴木氏のご発言が心に刺さるものとなった、と締めくくられました。

参考　中川運河堀止地区開発の取組み

堀止地区を起点に中川運河全体のにぎわい創出を図るため、名古屋市において開発事業者の公募を行い、令和5年9月に事業者を決定しました。現在、令和8年春の開業に向けて工事が進められています。

株式会社ホロニックが運営するホテル「SETRE（セトレ）」（東海地区初進出）や株式会社バルニバービが運営するレストランのほか、大屋根（キャナルルーフ）、広場、イベントビーチなど、水辺の魅力を活かしたにぎわい空間が整備される予定です。

スタートアップ助成&成長支援・実践活動助成団体

活動成果報告会を開催しました！

名古屋都市センターでは「地域まちづくり支援制度」でまちづくり活動を支援しており、そのメニューとして、実際に活動しているまちづくり団体に、必要な活動費用の一部を助成する2種類の制度（スタートアップ助成、成長支援・実践活動助成）があります。

それぞれ選考委員、評価員による選考会を経て助成団体を決定しています。

毎年3月から4月頃、助成を受けて活動した団体の1年間の活動の報告会を開催しています。

令和6年度は初めての試みで、スタートアップ助成と成長支援・実践活動助成の合同で同日開催しました。選考委員・評価員を交えて、制度の異なる2つの助成を受けて活動した団体の活動を知り、また団体同士で交流していただく貴重な機会となりました。

第1部

スタートアップ助成を受けて活動した全13団体。途中笑いもある和やかな雰囲気の中、活動初期の団体ならではのエピソードや感想、これからの目標などバラエティーに富んだ発表がありました。どの団体からもまちづくりへの熱意、楽しさが伝わってきます。

3回助成を受けた団体からは、いろいろな壁を乗り越えたこと、その後地域の中で活動がどんどん広がっていった様子などお話しいただきました。「名古屋都市センターの助成は、考え方や方向性を整理し、課題を解決する原動力になった。この経験を生かしたい！」と力強い決意表明も！

3年間の想いを発表されるスタートアップ助成3回目の皆さん

2つの助成制度の団体が入り混じり、グループに分かれランチ

あちこちで談笑の輪が生まれました！

～初のランチ交流会開催～

前半の発表終了後には、両団体全員でこちらも初のランチタイム交流会を実施。団体入り混じって6人程度でテーブルを囲み、日頃の活動の悩みや情報交換を積極的に行う姿が見られました。名刺交換をして「今後つながっていきたい団体ができた」と話す方々があちらこちらに見られ、両助成合同で行った意義を感じる時間となりました。

第2部

ランチタイム終了後は、成長支援・実践活動助成団体全7団体の発表。令和6年度は「構想づくり活動助成」が7団体中5団体と非常に多く、地域の方たちと調整しながら意見をまとめていく難しさや楽しさが臨場感たっぷりに伝わってきます。途中、委員に直接話しかけながら展望を語るなど、各団体熱のこもった報告をしていただきました。

全団体発表後は、団体同士の質疑応答を経て評価員から各団体への講評。今後の活動の指標のひとつとなるであろう、これまでの経緯を踏まえたフィードバックをいただきました。

熱意溢れる発表をされる成長支援・実践活動助成団体の皆さん

積極的な質疑応答がありました

三矢委員

最後は、両助成の委員を務める三矢委員より会全体の総評。助成制度ごとのアプローチ方法の違いや、スタートアップ助成から成長支援・実践活動助成への移行についてのアドバイスも。団体の皆さんだけでなく、私たち名古屋都市センターにとってもこれからの支援のあり方を考えるきっかけになりました。

最後は全員で写真撮影

支援班の広報 ご紹介

令和6年度の助成団体の活動の様子をまとめた、「活動助成ReportBook冊子」を発行しました。

11階喫茶コーナーに配架しております。
また名古屋都市センターホームページでもご覧いただけます。

詳細はコチラでご覧いただけます

11階喫茶コーナーで、助成団体の活動の様子を広報しています

まちづくり来（らい）ぶらり

第97号

まちづくりライブラリー

全国に誇るまちづくりの専門図書館です。名古屋市の戦災復興に関する資料や都市計画関連図をはじめ、都市計画概要などの行政資料や研究機関の調査研究報告書なども収集しています。

道徳公園クジラ池噴水

名古屋市は愛知県の都市公園面積第1位（2022年）になるほど緑が多い市です。

クジラ池噴水は道徳公園内（名古屋市南区道徳新町5丁目）にあります。

2010年に実施された市民が市内の隠れた魅力を見つける企画「夢なごや400」で大賞に選ばれ、また2021年（令和3年）に、国土の歴史的景観に寄与しているものとして登録有形文化財（建造物）にも登録されました。

クジラの形をした噴水は鉄筋コンクリート製で1927年（昭和2年）にコンクリート造形師後藤鍬五郎（くわごろう）によって製作されました。このクジラは全長9.7m、幅3.5m、高さ1.9m。周りに石と擬木で護岸を巡らした池の中にあります。そして池の脇にあるハンドルをひねると、頭から水を噴き上げます。

後藤鍬五郎は東海市の日本初鉄筋コンクリート製「聚楽園大仏」や長浦海水浴場にあったコンクリート製のモニュメント「大だこのターチャン」を製作したことでも知られています。

公園一帯はかつて「あゆち潟」と呼ばれた伊勢湾の一部でした。その当時クジラ漁をしていたと記録があるようです。文化14年（1817年）に海西郡塩田村（現在の愛西市塩田町）の豪農、鷲尾善吉が干拓を始め、公園は新田開発を経て、昭和初期の土地区画整理で開かれた地区に造られました。

クジラ池噴水は、かつて海だった場所が干拓された記憶なのかもしれません。

さらに詳しく知りたい方は、こちら

◆参考文献◆

『新修名古屋市史』（Sc-ナ）

『古地図で楽しむなごや今昔』（Sc-ミ）

『あゆち潟の考古学』（2B40-94）

※（）内はまちづくりライブラリーの請求記号です。

図書紹介

『尾張名古屋 歴史街道を行く —社寺城郭・幕末史—』

著者：大塚耕平
出版社：中日新聞社
請求記号：Sc-オ

尾張名古屋は畿内と近く、古代より都と東国・鎌倉・江戸をつなぐ街道の要所であり、街道の発展とともに形成されてきました。本書は街道から尾張国の地政・歴史を解説しています。また、幕末尾張藩の中心人物14代藩主徳川慶勝と彼の三人の弟、高須四兄弟の足跡から幕末史における尾張藩の関わりを考察します。先史時代から幕末まで、尾張名古屋の歴史をより深く知るための一冊です。

『宮田珠己の楽しい建築鑑賞』

著者：宮田珠己，傍島利浩(写真)
出版社：エクスナレッジ
請求記号：Id-ミ

本書は雑誌『建築知識』の連載記事をまとめたもので、私たちが住むまちでも楽しめる建築鑑賞について紹介しています。団地のような大きな建築物・公衆トイレのような小さな建物・エアコンの室外機にいたるまで、身近にある様々なものの愛好家たちの独自の視点での建築鑑賞作法を知れば、日常の景色の見方が変わります。ガイドブックとしても楽しめ、自分なりのまち歩きのヒントにもなる一冊です。

『豪雨と水害 専門家たちが語る防災意識を高める本2』

編者：こどもくらぶ
出版社：岩崎書店
請求記号：Ma-コ-2

近年、日本では地球温暖化による台風の大型化、線状降水帯やゲリラ豪雨による川の氾濫や土石流、浸水の被害が甚大になり、かつてないほど私たちの命と生活が危険にさらされています。本書は台風や実際に起こった災害の解説、気象・防災・救助の専門家たちの活動を紹介しています。こども向けのシリーズですが、家族みんなの身を守るための防災計画の一助になるでしょう。シリーズの1巻は地震と津波、3巻は火山と火災について解説しています。

1 令和7年度の地域まちづくり支援活動助成 助成団体が決定しました

名古屋都市センターでは、名古屋市内各地での地域まちづくりを推進するため、その取り組みを行うまちづくり団体を募集し、活動に必要となる費用の助成を行っています。

今年も、熱意と工夫溢れる多くの応募をいただきありがとうございました。

その中から、今年の活動助成団体は、スタートアップ助成12団体、成長支援・実践活動助成9団体に決定しましたので、ご紹介します！

■ スタートアップ助成　団体名《活動地区》

助成1回目

- ささしま暮らしのお寺市実行委員会《中村区》
- 上社ウェルまちビーイング《名東区》
- 烏が池　むすびばプロジェクト《東区》
- こどあそ《東区》
- 結-MUSUBI-《守山区》
- 対話コミュニティCOCOCHI《西区》
- 内田橋とつげき見守り隊《南区》

助成2回目

- いしきマルシェ実行委員会《中川区》
- こだまプラス《西区》
- 名東プレーパークの会《名東区》

助成3回目

- かみやしろ居場所づくり同好会《名東区》
- かさでら図書館運営委員会！《南区》

■ 成長支援・実践活動助成　団体名《活動地区》

PR助成

- 名駅四丁目まちづくり協議会《中村区》
- 明治・内田橋堀川まちづくり協議会《南区》

トライアル活動助成

- 有松まちづくりの会《緑区》
- 東桜エリアマネジメント協議会《東区・中区》
- マチゾラシンサカエマチ《東区》

組織基盤強化助成

- 平針北学区連絡協議会《天白区》

構想づくり活動助成

- 鶴舞・千種エリアマネジメント協議会《千種区・中区・昭和区》
- 星崎学区連絡協議会《南区》
- MACHIKOYA 守山大森《守山区》

詳細はWEBサイトからご覧ください。

2 まちづくりスキルアップ講座「まちづくり団体のための“伝わる・広がる広報術”」受講者募集！

まちづくり活動を行う皆様に向けて、広報を行う上での基本的な戦略や効果的な発信の仕方を学ぶ講座を行います。

第2回

誰にでもできるプレスリリース活用事例
「プレスリリースってハードルが高そう」と思っていませんか?
実は、ちょっとしたコツをつかめば誰でも作れるものなんです。
プレスリリースの基本とコツをお伝えしながら、ハードルの高さを取り払っていきます。
※第1回は終了いたしました。

日　時：8月31日（日）13時30分～16時00分
場　所：名古屋都市センター11階ホール
講　師：犬飼　奈津子　氏（株式会社Wo-one 代表取締役）

詳細及び申込は
WEBサイトより
ご確認ください。

3 「名古屋都市センターデジタルアーカイブ」を公開

名古屋都市センターは、その活動の中で都市計画関連資料や地域の写真や地図などを収集してきました。

この度、それらを収録した今までのアーカイブを元に、より豊かで使いやすい情報基盤として「名古屋都市センターデジタルアーカイブ」を再構築しました。約1000件の記録資料を新たに追加し、より多角的に名古屋の都市像を伝える内容となっています。

WEBサイトからご利用ください。

歴史を巡る まちを巡る

名古屋市内の文化財等をご紹介します。

歴まちくんとおとも

参考文献1より 1990年 中村図書館時代

参考文献1より 1965年 稲葉地配水塔

4階にある配水管展示

現在の名古屋市演劇練習館

名古屋市演劇練習館（旧稲葉地配水塔）
【景観重要建造物】中村区稲葉地町1丁目47番地

●アクセス方法

名古屋市演劇練習館（愛称はアクテノン）へは、地下鉄東山線「中村公園駅」から西へ約1.1km。市バスまたは名鉄バス「稲葉地公園」停の南になります。

●配水塔としてのはじまり

アクテノンは、もともと水道施設「稲葉地配水塔」として建設されました。1921年に庄内川以東の地域が名古屋市に編入され水道需要が急増。それに応える形で名古屋市水道部の成瀬薫氏が設計、淺沼組が施工し、建設費15万310円（当時の公務員の初任給75円）をかけ1937年に完成しました。

満水時の水の重さ約4千tを支えるパルテノン神殿のような姿は遠くからもよく見えました。

●中村図書館として再生

稲葉地配水塔は配水管増強工事により早くも1944年に役目を終えます。廃止後は長い間倉庫として使われていましたが「一区一図書館政策」により1965年に「中村図書館」として生まれ変わりました。

●そして演劇練習館へ

ユニークな外観から親しまれていた中村図書館でしたが、バリアフリー化などの問題もあり1991年に中村公園内へ移転しました。その後、建物の活用方法が検討され「演劇の練習ができる施設がほしい」という市民の声を受け、1995年に「名古屋市演劇練習館」として再び生まれ変わりました。

旧水槽部分は実際の舞台を模したリハーサル室へと改修されたほか、大小さまざまな練習室があり、演劇だけでなく多目的に利用されています。

●地域の象徴として

ユニークな外観から1996年に名古屋市都市景観賞を受賞、2020年には景観重要建造物として指定されました。

二度もリノベーションされ皆に親しまれている旧稲葉地配水塔は今年（2025年）で完成から88周年を迎えました。

《参考文献》
1.名古屋市中村図書館（1991年）
『さようなら配水塔の図書館』名古屋市中村図書館
2.愛知県教育委員会（2005年）
『愛知県の近代化遺産』
3.名古屋市上下水道局（2014年）
『名古屋市水道百年史』
4.同盟出版サービス（2001年）
『値段史年表　明治・大正・昭和』

公益財団法人 名古屋まちづくり公社
名古屋都市センター
Nagoya Urban Institute

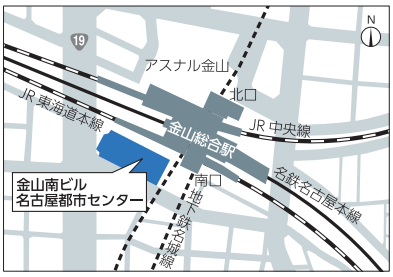
〒460-0023
名古屋市中区金山町一丁目1番1号　金山南ビル
TEL 052-678-2208
FAX 052-678-2209
http://www.nup.or.jp/nui/

ISSN:1341-6820

この印刷物は再生紙を使用しています。

利用案内◉どなたでもご利用いただけます。

【11階】まちづくり広場
（展示スペース・ホール・喫茶コーナー）
【12階】まちづくりライブラリー
火～金曜日：10:00～18:00
土・日曜日・祝休日：10:00～17:00
※休館日：月曜日（祝休日の場合はその翌日）、
年末年始
まちづくりライブラリーは、
上記のほか第4木曜日、特別整理期間も休館



SNS
やってます！